

2012年度受託研究概要報告

白鶴 生貯蔵酒のポスター作製

研究メンバー

赤崎正一 デザイン学部ビジュアルデザイン学科教授  
萩原こまき デザイン学部ビジュアルデザイン学科実習助手

委託者

白鶴酒造株式会社

研究概要

白鶴酒造株式会社からの依頼内容は、主要な普及商品であるビン詰め「白鶴 生貯蔵酒」に関するものであり、要点は以下の2点に集約される。

- 1) 居酒屋等の飲食店の店舗内での販売促進に効果のある、従来のものにはない斬新なデザインの中吊り状のA4判ポスター
- 2) 若者をターゲットとして、顧客層の世代の更新を可能とするようなデザインスタイルの開発。

上記の要求をビジュアルデザインとして、どのように具体化するかを受託先である白鶴酒造担当者と協議した。

主要な問題は「日本酒」の持つ古い固定したイメージをどのようにデザイン表現の力で脱却し、更新するかと言うことにフォーカスされた。商品としての「白鶴 生貯蔵酒」は同業他社製品と比較してもボトルデザイン、ラベルデザイン、また「白鶴」のロゴそのものも、デザインの水準は十分に洗練されたものであると判断できる。にもかかわらずポスター・ポップ等の印刷物宣材が、それを十分に生かしていないという白鶴社内の評価もあり、従来のポスター等の制作物を検討した。そこではやはり固有に「日本酒」的なデザインポキャブラリー（写真イメージ・使用書体等々）が陳腐化を免れないままに使用されている実態を認めた。

そこで提案するデザイン案においては、主に写真イメージとタイポグラフィの2つの側面から研究をすすめることとした。

研究成果

開発・提示したデザイン案は以下の2つの相異なるスタイルで制作をすすめ、受託先への4次にわたるプレゼンテーションとその後の協議によって到達したものである。。

- 1) 透明感や流動性に溢れた清冽な液体的イメージの写真を主要モチーフとして使用したもの。
- 2) あえて写真イメージに依存せずに、日本語の文字書体そのものが持つ美や文字組版の特徴を展開したもの。

固定された「日本酒」イメージの更新と、若者層への訴求力の追求というのが、本案件のきわめて明確な目標である。その要求をビジュアルデザインとして、どのように説得性の高い実現案とするかを討議した結果が、上記の2案のデザインの方向性である。両案ともに研究期間の早い段階から研究組織により提示したものであり、受託先との協議の中でも、従来にはない新鮮な提案との評価を得た。具体的な制作の過程では主要なソフトウェアとしてAdobe InDesignを使用した。写真イメージは既存のウェブ・ストレージにある著作権フリーの素材をダウンロードして、さらにAdobe Photoshopによって、さまざまにイメージ加工を施しフォトコラージュ手法にもよって制作した。日本語組版・タイポグラフィによる案では、日本語書体の文字の美を際立たせることを目的に、伝統的な「囲み罫」のポキャブラリーをかなり大胆に導入した。この案はその斬新性において特に受託先から高い評価を得た。

